

いった。

私は土崎（幸野先生や小生の生れ故郷）の港まつりのお囃子の手引き位しか出来なかつたが今年土崎神明社祭曳山行事がユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財に指定された事をお知らせし十五年前女房と利尻島へ渡り利尻岳へ登るつもりが土砂降りの雨に会いその気も失せてタクシー運転手に「どこか見物すべき所へ」と言ったら公民館的な所へ案内されたのだが入った瞬間我が土崎の港まつりのお囃子と寸分たがわぬ鉦、太鼓が館内いっぱい響いて居り三百有余年の歴史の重みに脳がいつぱいになった事を皆様にご紹介しこの度の反省文にさせて頂く次第であります。

追伸

利尻島のうにの骨酒は日本一!!

増田満美子 七年程前から、「noteの会」という勉強会を月に一度行っています。途中引越したため抜けられた方や内容の変化などありながら、現在は大口玲子

さん、鬼束美佐子さん、渡邊円さん、増田満美子と別の結社の方一名を加えた五名で活動しています。

会の前半は近代短歌について「近代短歌の鑑賞77小高賢編（新書館）を参考に、毎回一人の歌人を交代で担当し、調べてきたことについて意見を交わし合うというもの。調べる内容や切り口は担当者に任されています。前回は私が与野野晶子について発表したのですが、生い立ちから『みだれ髪』が出版されるまでのことを中心に調べました。

また、各自が印象に残った五首を選びその理由などを話すのですが、三十〜九十首の中から選んだ歌が重なるのも面白いところです。目次順に落合直文から始めて長塚節まで進んでいます。自分一人で近代短歌について学ぶことはなかなか難しいと思うので、貴重な勉強会となっています。後半は自作の詠草五首ずつ、名前を公表しての歌会です。人数が少ない分言いやすいのか、かなり活発な意見が交わされます。細か

なところまで指摘し合えるところが、この会の一番良いところだと思います。

内々の会ではありませんが、昨年は偶然宮崎にいらした黒岩剛仁さんが参加され、歌評をしていただきました。宮崎駅えきマチ一丁目のケン&ミチという喫茶店で土曜日の朝九時から十一時までの二時間です。ご興味のある方はご一報いただければ、スペシャルゲストとしてお迎えいたします。

青木泰子 気せわしい十二月に私達は家を買ひ、このサンホセの家を売りました。

感謝祭のあと娘家族の住んでいるロングビーチに行っていました。丁度そのとき隣家に大きな売れ札が立ちました。私達はいつかは娘家族の近くに住みましょうと、最後の計画をしていました。隣家が売りにでたのですから、家族全員で一週間も話し合い、決心をして買いました。すぐ、サンホセに帰り、知り合いの不動産屋に電話をすると、その日の夕方には多くの

書類を抱えてやってきました。次の日にカメラマンがきて家の内外を撮影し、次の日にウェブに掲載せると二十四時間後のわずか四時間のオープンハウスに三十数人の人が並んだそうです。そのとき私達は外出していません。オープンハウスから二時間後には三人の買いたい人が予約をしました。夜七時ごろ不動産屋の事務所まで、希望価格より八百万円高い値をつけた人に売買契約のサインをしました

た。たった一日でごく普通の住宅が売れるのですから、ぼかんとした私は感情がつかいけません。四十五年暮らした家です。佐木幸綱先生はじめ「心の花」の人たちに来ていただき、歌会を開いた家です。及川ゆふこさんが七年近く出入りしていた家です。二〇一七年のシリコンバレーの住宅価格は狂気の沙汰です。億という家を買える三十代の人たちが並んでいるのは世界中でシリコンバレーだけです。七〇代の私たちはグッドラックというばかりです。